



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 330
September
2020

トピックス

お知らせ

アジア防災会議
(ACDR2020) : 新しい日常
への適応 アジアからのア
プローチ

関係機関との協力推進

『 NPO法人MISとの防災教
育活動の推進

『 日本アセアン統合基金
プロジェクト:ブルネイに
おける「学校での防災教育
の推進」

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
https://www.adrc.asia

© ADRC 2020

●お知らせ

アジア防災会議 (ACDR2020) : 新しい日常への適応 アジアからのアプローチ

先月号でお知らせの通り、今年度のアジア防災会議 (ACDR2020) は、1) 防災対策と激化する災害リスクへの挑戦、及び2) 災害対応と新型コロナウイルス感染症対応策の2つのテーマに焦点を当て、メンバー国の状況の共有を促進し、今後の行動について議論します。ACDR2020は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の状況を受け、初めてWeb上で、そして以下の3つの構成で開催されます。

- (1) ACDR2020特設ウェブサイト設置、レポート募集と公開(9-10月)
- (2) オンライン会議(10月20-22日) (日、英、露同時通訳)
- (3) 報告書

ACDR2020の特設ウェブサイト (<https://acdr.adrc.asia/>) は9月15日に設置され、一般参加者の参加登録を開始しました。10月20-22日のオンライン会議も同ページ内のリンクよりアクセスしてください。



特設ウェブサイト (<https://acdr.adrc.asia/>)

オンライン会議の概要は以下の通りです。

10月20日 開会式/キーノートスピーチ

- ・ Mr. Sanny Ramos JEGILLOS、国連開発計画バンコク地域事務所上級アドバイザー
- ・ 磯部雅彦、高知工科大学学長
- ・ Prof. Arnold M. HOWITT、ハーバードケネディスクール教授
- ・ Prof. Ian Robert DAVIS、京都大学客員教授

10月21日 技術セッション1：防災対策と激化する災害リスクへの挑戦

- モデレーター：Dr. Manzul Kumar HAZARIKA、アジア工科大学教授
- ・ メンバー国 (予定) : 日本、ベトナム、ミャンマー、モルディブ

続き

- Prof. Cees VAN WESTEN, トウエンテ大学教授
- Dr. Mizan Bustanul Fuady BISRI, 国連大学研究員
- Mr. Keith Paolo C. LANDICHO, ASEAN防災人道支援調整センター

10月22日 技術セッション2：災害対応と新型コロナウイルス感染症対応策

モデレーター：石渡幹夫、東京大学客員教授/JICA専門員

キーノートスピーカー：Dr. Jemilah binti MAHMOOD、公衆衛生担当マレーシア首相特別補佐官

- メンバー国：アルメニア、インド、韓国、ネパール、フィリピン
- Mr. Daniel GILMAN、国連人道問題調整事務所人道問題担当官
- 柴崎亮介、東京大学・空間情報科学研究センター教授
- Dr. Khamarrul Azahari RAZAK、マレーシア工科大学災害予防センター長（コメンテーター）

ウェブページの情報は順次更新していきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●関係機関との協力推進**NPO法人MISとの防災教育活動の推進**

現在、アジア各国においては様々な防災活動が実践されています。この中で、防災教育は災害の基本について学び、次の災害に備えることが出来る有効な手段の一つです。特に、2004年のスマトラ島沖地震による最大の被災地であるインドネシアのバンダアチェにおいては、国内外の様々な機関によって、防災教育活動の普及が進められています。

本日紹介するのは、NPO法人MIS (Multilateral International Students) です。MISは2011年に東京大学の学生の方々が設立された団体で、防災に限らず、貧困、環境、農業支援などをテーマにアジア各国で活動されています。現在では、東京大学の学生の方々を中心に約140名で構成されています。

その活動のひとつに、インドネシアのバンダアチェを対象とされたチーム、JISI (Japan Indonesia Students Interaction) があります。JISIは2014年から同地域において防災教育の活動を推進されていて、生徒や教員向けのワークショップ、避難訓練などを実施されています。一方で、本年も同様の活動が実行される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で渡航が困難となり、現在は国内での情報収集などの対応をされています。そこで、同分野の活動実績があるアジア防災センターと、今後の活動を見据えて、2020年9月2日にWebの意見交換会が実施されました。ここでは、日本の防災教育をひとつの参考情報として、現地の方々の要望に応じたプログラムのローカライズ、学校関係者だけではなく地域住民の方々に参加いただく総合的な防災訓練の必要性などの意見交換が行われました。アジア防災センターとしましては、今後、JISI様との活動連携を模索し、インドネシアにおけるより良い防災教育について検討したいと思います。



意見交換の様子

日本アセアン統合基金プロジェクト:ブルネイにおける「学校での防災教育の推進」

アジア防災センターはブルネイ国教育省と協力し、「学校での防災教育の推進事業」の教員に対するオンライン・セミナーを8月27日及び9月10日の2回にわたり実施しました。本プロジェクトは日本アセアン統合基金プロジェクトの1つであり、アセアン10カ国における学校での防災教育推進を目的とした教員研修を小中学校レベルで実施しています。

当初は、本プロジェクトをブルネイの首都バンドルスリブガワンにて実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、オンラインで教員研修を行うことになりました。2日間の教員研修には、ブルネイの6学区全てから60名以上の中学校教員と教育省職員が参加しました。

始めに、アジア防災センター中川雅章所長より、日本の防災教育を紹介し、効果的な教授法をブルネイの防災教育に活用することにより災害に強い社会を目指したいとの挨拶がありました。

次に、兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 諏訪清二特任教授より日本の防災教育事情について「防災と防災教育」の講義がありました。講義では、日本の防災教育についてどのような科目でどの災害を教えているかなどについて教材を交えながら紹介されました。例えば、日本の中学校のカリキュラムでは、「理科」で天候、豪雨、地形の変化、地震・火山のメカニズムについて、また「社会」ではライフライン、防災関係機関、過去の災害について学習しています。講義の後には、各学区のグループに分かれ避難についての演習を行いました。参加者からは、日本の防災教育に大変関心をもち、防災教育について更に学びたいとの要望がありました。



ブルネイ オンライン・セミナー 諏訪特任教授

新型コロナウイルス感染拡大の中ではありますが、アジア防災センターは今後もオンラインツールなどの様々な手法を用いて活動を続けて参ります。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。